

「延喜式博物館」京都岡崎誘致構想

菊地 暁

(京大大学人文科学研究所助教)

「延喜式」という法令がある。延喜5年(905)編纂開始、22年を経て完成したという律令の施行細則集成は、全50巻、約3300条という大部を誇り、単なる法令の域を超えて当該期の風土物産を知る一種のデータベースとなっている。延喜式神名帳に記された2861社が「式内社」と呼ばれ古式ゆかしき神社とされているのは周知のことだろう。ならばこの延喜式に則って資料を展示することで、そのまま平安日本を伝える一大ミュージアムができるのではないか。

そう考えたのが渋沢敬三(1896-1963)である。日本資本主義の父・渋沢栄一を祖父とする敬三は、財界人として日銀総裁や大蔵大臣を歴任する一方、学問への思い捨てがたく、東京三田の自邸を民俗資料館「アチック・ミュージアム(屋根裏の博物館)」とし、さらには日本民族学会(現日本文化人類学会)を後援して東京保谷に民族学博物館を設立するなど、さまざまな博物館を支えてきた。その渋沢が描いた夢の一つが「延喜式博物館」だった。

ならば、京都に作るに如かず。そう進言したのが民族学者・梅棹忠夫(1920-2010)だった。梅棹が渋沢に宛てた書簡(昭和31年6月19日消印、渋沢史料館所蔵)には興味深い提案が綴られている。

延喜式博物館のこと、京都でなら市長が関心をもつかもしれぬと申し上げましたが、今日、新聞をみましたら、若干関係のある記事が目につきました。

御承知とは思いますが、京都ではいま、観光税をとる計画をすすめております。原案ができて、助役が19日に上京、自治庁に提出して、話し合いをすすめるそうです。その税金の使い途として、観光会館(市民会館)のほかに、観光資料館をつくることをあげています。

岡崎の市の商品陳列館を利用し、京都の古い歴史や風俗などの資料を並べるといふ計画だそうです。

この観光資料館が実現するならば、そのうちのかなりの部分を、延喜式博物館にあてることは、比較的容易なことと想像します。現在、どういふ人がこの観光資料館の企画に参画しているのか存じませんが、もし先生より市長に何かのときにちょっとサジェスションをお示しになれば、案外早い機会に実現するのではございませんまいか。

機を見るに敏というべきか。この提案に渋沢がどう応じたかは残念ながら定かでない。その後の経緯を確認すると、観光税は予定通り実施され、その税収により京都会館(現ロームシアター京都)が建設される。渋沢が支援した民族学博物館の資料は、大阪万博を契機に設立された国立民族学博物館(1977年開館)に移管され、その初代館長には梅棹忠夫が着任する。そして、商品陳列館は「みやこめっせ」となり(1996年開館)、その地階の「京都伝統産業ふれあい館」が京の伝統工芸を紹介している。

結局、「延喜式博物館」は未完のまま。だが、それに一番近い位置にあるのは今でも岡崎ではなからうか。古代から近現代までの史跡が折り重なる文化的景観のなか、天然を扱う動物園と人造を扱う美術館、文字を扱う図書館と非文字の演技を扱う劇場、多様な施設が相互補完的に居並び、そして何より、大極殿を模した平安神宮が鎮座する。この地の利をもってすれば、21世紀版「延喜式博物館」も夢ではないのかもしれない。

京都国立近代美術館賛助会員

特別会員 **水** ホ下グループ | FUJIFILM一般会員 **W** ワコール | **中央信用金庫** | **KYOCERA**

当館は上記の賛助会員の皆様からご支援、ご支持をいただいております。

2018年5月1日 発行 視る 494号

編集・発行 | 京都国立近代美術館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町 電話 | (075)761-4111(代表)

編集協力 | 株式会社福本事務所

組版フォーマット設計・表紙デザイン | 大西正一 印刷 | 野崎印刷紙業株式会社

表紙 | フィンセント・ファン・ゴッホ《ボブラ林の中の二人》1890年
シンシナティ美術館(メアリー・E・ジョンストン遺贈)